

和歌山市地域公共交通計画及び  
和歌山市都市・地域総合交通戦略実施にかかる計画進捗管理シート(5年間)

【凡例】  
研究・検討 → 実施 →

資料3

施策	実施主体	実施期間	実施手順	スケジュール					R元年度の実施内容	R5年度の実施内容	令和5年度決算見込	達成度 完了:◎ 一定の成果・継続:○ 進捗していない:△	
				R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度					
①-1	基幹路線や中心部基幹区間の設定	和歌山市が中心となり、交通事業者等と連携しながら進める。	短期 (~5年)	設定	→					計画策定時に協議会において、決定済み			
①-2	利用実態を踏まえた基幹バス路線の運行効率化	交通事業者が中心となり、和歌山市と連携しながら検討、実施する。	中期 (5~10年)	分析・検討、組み換え調整	→	→	→	→	→	和歌山バス網、和歌山市で協議中	データ分析に基づく検討		○
①-3	中心部の乗り継ぎの利便性向上や拠点づくり	和歌山市が中心となり、交通事業者等と連携しながら進める。	中期 (5~10年)	ダイヤ調整検討	→	→	→	→	→	和歌山バス網、和歌山市で協議中	データ分析に基づく検討		○
				環境確保検討、計画・設計	→	→	→	→					
				拠点整備	→	→	→	→					
②-1	基幹バス路線の機能向上の検討	行政と交通事業者が、連携して進める。	中期 (5~10年)	空間検討	→	→	→	→	BRT、LRT等の新交通システムによる利便性向上の研究	・自動運転実証運行业業	自動運転実証運行业業 10,071,600円		○
				設計、道路整備	→	→	→	→					
				自動運転調査・研究	→	→	→	→					
②-2	バス車両待機スペースの確保	和歌山市が中心となり、交通事業者等と連携しながら進める。	中期 (5~10年)	その他確保方法の検討	→					和歌山駅周辺の再整備を検討			○
③-1	需要に応じた公共交通供給戦略の検討	(ピークへ対応した供給)和歌山市と交通事業者等が連携しながら検討し、交通事業者が実施する。 (終電までの需要対応)和歌山市と中心部の商店街や店舗、事業所、大学、交通事業者と連携して検討する。	短期 (~5年)	大学生需要把握・対応方策の検討	→	→	→	→	平成31年4月のダイヤ改正(ピークへ対応した供給) ○利便性向上・混雑緩和に向けた増便 1.平日朝7時台のJR和歌山駅発・25系統和歌浦口行き及び27系統県庁前行きをそれぞれ1便ずつ増便。 2.平日のJR和歌山駅発・79系統和歌山大学行き(和大ライナー)を1便増便。  (終電までの需要対応) ○夜間時間帯の充実に向けた最終便の時間繰り下げ 1.平日の和歌浦口発・25系統JR和歌山駅行きの最終発車時間を約40分繰り下げ。 2.平日のJR和歌山駅発・0系統南海和歌山市駅行きを22時台に2便増便し、最終発車時間を50分繰り下げ。	・データ分析に基づく検討 ・高校、大学入学にあわせた公共交通利用啓発チラシ配布	新入生向け利用啓発チラシ配布事業 55,000円		○

和歌山市地域公共交通計画及び  
和歌山市都市・地域総合交通戦略実施にかかる計画進捗管理シート(5年間)

【凡例】  
研究・検討 → 実施 →

資料3

施策	実施主体	実施期間	実施手順	スケジュール					R元年度の実施内容	R5年度の実施内容	令和5年度決算見込	達成度 完了:○ 一定の成果・継続:○ 進捗していない:△	
				R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度					
④-1	ネットワーク形成状況を踏まえた効果的なBRT、LRT等の導入研究	和歌山市が中心となり、交通事業者や関係行政機関等と連携しながら進める。	中期(5~10年) 導入可能性調査・検討	→	→	→	→	→	BRT、LRT等の新交通システムによる利便性向上の研究	導入可能性等について事業者と連携し、研究		○	
⑤-1	異なるモード間の乗り継ぎ環境整備の検討	交通事業者が中心となり、和歌山市等と連携しながら進める。	中期(5~10年) ダイヤ設定検討 案内環境のあり方検討 案内等の整備	→	→	→	→	→	・和歌山市駅の環境整備 ・和歌山駅の環境整備について、交通事業者と行政が協議 ・バスロケーションシステム導入及びオープンデータ化(グーグルとの連携)	・交通事業者との協議、検討		○	
⑤-2	鉄道事業者間の乗り入れやシームレス化の検討	行政と交通事業者等が連携しながら進める。	中期(5~10年) 手法検討	→	→	→	→	→	交通事業者と行政が協議	・交通事業者との協議、検討		△	
⑥-1	中心拠点の駅等の環境整備や機能向上	和歌山市が中心となり、交通事業者、基幹路線に近接する店舗や事業所、道路管理者等と連携しながら進める。	短期(~5年) 乗り継ぎ環境整備 乗り継ぎ環境検討や店舗等連携検討	→	→	→	→	→	【和歌山市駅の再整備事業の完了】 ・和歌山市駅の環境整備 ・和歌山駅の環境整備について、交通事業者と行政が協議	和歌山駅周辺の再整備を検討		○	
⑦-1	都市交通施策と駐車場集約化の促進	和歌山市が中心となり、駐車場事業者、交通事業者、交通管理者等と連携しながら進める。	短期(~5年) 回遊性向上検討・駐車場集約化検討 自動車流入制限策の検討	→	→	→	→	→	【北駐車場、本町駐車場の完成】 駐車場再編事業(北駐車場、本町駐車場)	・シェアサイクル事業の可能性について、事業者と検討		○	
⑦-2	駐車場と公共交通等が連携した回遊促進	和歌山市が中心となり、プリンパキング運営会社、交通事業者等と連携しながら進める。	短期(~5年) 案内等の整備 利用促進策検討	→	→	→	→	→	関係機関との協議、検討	関係機関との協議、検討		△	
⑧-1	歩きたくなる魅力的な道路空間づくり	和歌山市が中心となり、道路管理者等と連携しながら進める。	中期(5~10年) 道路空間検討 道路空間の設計、整備	→	→	→	→	→	和歌山城前広場及び市道中橋線の整備	・市道中橋線の整備 ・社会実験を通じた居心地が良く歩きたくなる道路空間の検討(市道北ぶらくり丁線)	・市道中橋線の整備(R4→R5繰越) 172,285,300円 ・社会実験を通じた居心地が良く歩きたくなる道路空間の検討(市道北ぶらくり丁線)(R4→R5繰越) 10,000,000円		○

和歌山市地域公共交通計画及び  
和歌山市都市・地域総合交通戦略実施にかかる計画進捗管理シート(5年間)

【凡例】  
研究・検討 → 実施 →

資料3

施策	実施主体	実施期間	実施手順	スケジュール					R元年度の実施内容	R5年度の実施内容	令和5年度決算見込	達成度 完了:○ 一定の成果・継続:△ 進捗していない:△			
				R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度							
⑨-1	中心部の公共交通とシェアサイクルの連携	民間事業者が中心となり、交通事業者、行政等と連携しながら進める。	短期 (~5年)	事業化検討、調整	→					・今年度、策定予定の自転車活用推進計画に取り入れるかを含めて検討	シェアサイクル事業の可能性について、事業者と検討		○		
⑨-2	自転車の安全で快適な走行、駐輪環境の整備	和歌山市が中心となり、道路管理者等と連携しながら進める。	短期 (~5年)	空間計画  空間の設計、整備	→						・自転車活用推進計画を策定した。 ・自転車通行空間整備基本計画・実施計画を策定した。	・走行環境の整備について、道路管理者等と協議 ・新和歌浦中之島紀三井寺線において自転車通行空間の整備を実施した	新和歌浦中之島紀三井寺線における自転車通行空間の整備 9,139,900円	○	
⑩-1	支線の形成検討	和歌山市と交通事業者が、地域等と連携しながら進める。	中期 (5~10年)	路線検討・調整  支線運行						→	→	交通事業者と行政が協議中	支線について、交通事業者と協議、検討		○
⑩-2	新たな需要を取り込む路線の整備検討	和歌山市が中心となり、交通事業者や地域等と連携しながら進める。	中期 (5~10年)	路線検討・調整						→	→	交通事業者と行政が協議中	交通事業者との協議、検討		○
⑪-1	地域の意向を踏まえた地域バスやデマンド交通等の試行や導入	(各地域での交通手段検討)和歌山市の支援のもと、地域が主体となり交通事業者等と連携しながら進める。(ガイドラインの見直し)和歌山市が中心となり、地域や交通事業者と連携しながら進める。	短期 (~5年)	導入検討  地域路線運行支援						→	→	地域と和歌山市が協議中(西脇地区、木本地区、湊地区、有功地区、四箇郷地区、安原地区)	・R4実証運行の結果を踏まえ、有功線、木本・西脇線本格運行の本格運行を新たに開始。 ・川永地区地域バス実証運行を実施。	・地域バス運営補助金(紀三井寺、有功、木本・西脇)10,924,280円 ・川永地区地域バス実証運行2,739,861円 ・デマンド型乗合タクシー運営補助756,020円	○
⑪-2	多分野連携や地域資源を活用した移動手段の確保策の検討や導入	和歌山市が中心となり、地域や交通事業者と連携しながら進める。	短期 (~5年)	導入検討(上記と連動)						→	→	地域、スーパー等、交通事業者と協議中	地域、スーパー等、交通事業者と協議中		△
⑫-1	使いやすい、使いたくなる乗り継ぎ拠点づくり	和歌山市が中心となり、商業施設等と連携しながら進める。	中期 (5~10年)	拠点機能検討、計画  環境整備の検討						→	→	和歌山バス㈱、和歌山市で協議中	交通事業者及び関係者との協議		△
⑬-1	駅やバス停周辺の自転車駐輪環境や商業施設等と連携したパーク&ライド駐車場の整備	和歌山市が中心となり、道路管理者や交通事業者、沿道店舗等と連携しながら進める。	中期 (5~10年)	設計、整備  連携、情報発信検討						→	→	検討中(バス停:延時、土入橋)	現状分析し、候補バス停の検討		△
⑭-1	基幹路線や中心部基幹区間の名称、ナンバリング、カラーリング等の整理や見直し	和歌山市と交通事業者が連携して進める。	短期 (~5年)	ルール・デザイン検討  マップ・案内整備						→	→		交通事業者との協議、検討		△

和歌山市地域公共交通計画及び  
和歌山市都市・地域総合交通戦略実施にかかる計画進捗管理シート(5年間)

【凡例】  
研究・検討 → 実施 →

資料3

施策	実施主体	実施期間	実施手順	スケジュール					R元年度の実施内容	R5年度の実施内容	令和5年度決算見込	達成度 完了:◎ 一定の成果・継続:○ 進捗していない:△	
				R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度					
15-1	情報を一元的にまとめたマップやホームページ等の提供	和歌山市が中心となり、交通事業者等と連携しながら進める。	中期 (5~10年)	情報発信の検討・コンテンツ作成	→					・公共交通情報マップ(Wap)の配布 ・和歌山市ホームページへの各交通事業者のリンク ・和歌山市公共交通政策推進協議会で検討	・公共交通情報マップ(Wap)の配布 ・会議案内等への交通アクセス情報の記載勧奨	・公共交通情報マップ(Wap)の配布 278,300円	○
16-1	バスロケーションシステムの導入	交通事業者が中心となり、行政が支援を行いながら進める。	長期 (10年~)	システム導入	→					【和歌山バス株に導 令和元年4月1日からバスロケーションシステム導入及びオープンデータ化(グーグルとの連携)	データ収集・分析		◎
16-2	ICカードの導入		長期 (10年~)	ICカード導入	→					令和2年春導入予定(和歌山バス株及び和歌山バス那賀株、JR西日本株JR和歌山線)	データ収集・分析		◎
17-1	待合環境の整備や改善	交通事業者とバス停に近接する民間施設等と連携し、行政が支援を行いながら進める。	中期 (5~10年)	設計、整備、民間施設への協力要請	→					検討中	現状分析し、候補バス停の検討		○
18-1	駅のバリアフリー化の推進	交通事業者が中心となり、行政が支援を行いながら進める。	長期 (10年~)	支援実施	→					・JR紀三井寺駅の詳細設計を実施	・交通事業者との協議、検討 ・紀ノ川駅周辺バリアフリー基本構想の策定	・バリアフリー化推進事業 243,602円	○
18-2	バリアフリー車両の導入促進		長期 (10年~)	支援実施	→					・UDタクシー導入促進補助を実施	必要に応じて事業者と協議		○
19-1	駅やターミナル、線路等の補修、維持	交通事業者が中心となり、行政が支援を行いながら進める。	長期 (10年~)	支援実施	→					駅のバリアフリー化と併せて実施	線路等の補修維持	・貴志川線設備整備費補助 20,270,000円	○
19-2	車両の更新		長期 (10年~)	更新の推進	→					・JR西日本株が、新型車両227系を導入 ・南海フェリー株の新造船導入	交通事業者及び庁内関係課と協議		○
20-1	拠点での案内充実	行政と交通事業者等が連携して進める。	中期 (5~10年)	—(⑤と連動)	→					和歌山市駅で、交通事業者と行政が協議	・交通事業者との協議、検討		○
20-2	ICTを活用した情報取得環境の充実	和歌山市が中心となり、検索サービスや配車アプリ等の提供者、交通事業者等と連携しながら進める。	中期 (5~10年)	あり方検討・調整	→					・タクシー事業において、配車アプリ、スマートフォン等を活用したQRコード決済の利用が可能な事業者の拡大(キャッシュレス化の拡大) ・キャッシュレス推進協議会の策定する統一QRコード・バーコード(JPQR)の効果検証を和歌山県内で実施 ・和歌山バス株が令和元年4月1日からバスロケーションシステム導入及びオープンデータ化	事例研究		△

和歌山市地域公共交通計画及び  
和歌山市都市・地域総合交通戦略実施にかかる計画進捗管理シート(5年間)

【凡例】  
研究・検討 → 実施 →

資料3

施策	実施主体	実施期間	実施手順	スケジュール					R元年度の実施内容	R5年度の実施内容	令和5年度決算見込	進捗度 完了:◎ 一定の成果・継続:○ 進捗していない:△	
				R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度					
⑳-1	駅やバス停での多言語による公共交通案内の充実	和歌山市と交通事業者等が連携しながら進める。	中期 (5~10年)	設置方法の検討 案内設置	→					和歌山バス(株)により、和歌山駅、マリーナシティ、県立医大病院でデジタルサイネージを設置 ・バスロケーションシステムの多言語化	事業者と連携し検討		○
㉑-1	公共交通従事者のサービス向上や車内環境改善	和歌山市と交通事業者等が連携しながら進める。	長期 (10年~)	取り組み検討 案内等の実施	→					和歌山駅、和歌山市駅に優良タクシー乗り場を導入 【優良タクシー乗り場の導入】	・優良タクシー証明書配布		○
㉒-1	観光地間を周遊するための交通手段の連携	交通事業者が中心となり、和歌山市や観光協会等と連携しながら進める。	中期 (5~10年)	役割分担や連携方策の検討・調整	→					和歌浦湾における海上観光交通手段導入に係る事業者の初期投資に補助を行い、運航開始を支援	シェアサイクル事業の可能性について、事業者と検討		○
㉒-2	観光地周遊バスの検討	和歌山市が中心となり、観光協会や交通事業者等と連携しながら進める。	中期 (5~10年)	運行検討	→					和歌山バス「雑賀崎線」と併せて検討	交通事業者との協議、検討		○
㉒-3	フリンジパーキングを活用した公共交通による手ぶら観光の促進	和歌山市が中心となり、フリンジパーキング運営会社や旅行会社、交通事業者等と連携しながら進める。	中期 (5~10年)	—(㉑と連動)	→					駐車場再編事業と併せて検討	駐車場再編事業と併せて検討		△
㉓-1	関西国際空港への公共交通の利便性向上	交通事業者が中心となり、和歌山市等と連携しながら進める。	中期 (5~10年)	利便性向上の検討	→					交通事業者と行政が協議	交通事業者との協議、検討	・関西国際空港関連事業 52,000円	△
㉔-1	地域特性を活かした広域周遊施策の検討	和歌山市が中心となり、旅行会社等の民間事業者や交通事業者等と連携しながら進める。	中期 (5~10年)	利用促進策検討・調整	→					本市と近隣市町村で、お互いの観光資源を活かした公共交通による広域的な観光誘客体制を検討	・近隣市町村等と連携し位置情報アプリを活用した周遊スタンプラリーイベントの開催 ・徳島市及び交通事業者と連携し、航路利用促進キャンペーンを実施	・周遊スタンプラリー事業 904,965円 ・和歌山徳島航路利用促進補助事業 516,000円	○
㉔-2	JR和歌山線の有効活用	西日本旅客鉄道が中心となり、和歌山市等と連携しながら進める。	中期 (5~10年)	活性化策を検討	→					・新型車両227系で、車載型IC改札機を導入 ・和歌山線活性化検討委員会で事業を実施	・和歌山線活性化検討委員会で事業を実施	・和歌山線活性化検討委員会負担金 200,000円	○
㉔-1	徳島エリアと連携した広域周遊施策の検討	和歌山県及び徳島県、和歌山市、徳島市、南海フェリー、その他関係機関との協力体制により進める。	中期 (5~10年)	支援実施	→					和歌山徳島航路利用促進事業を実施	和歌山徳島航路利用促進事業を実施	・和歌山徳島航路利用促進補助事業 516,000円	○

和歌山市地域公共交通計画及び  
和歌山市都市・地域総合交通戦略実施にかかる計画進捗管理シート(5年間)

【凡例】  
研究・検討 → 実施 →

資料3

施策	実施主体	実施期間	実施手順	スケジュール					R元年度の実施内容	R5年度の実施内容	令和5年度決算見込	達成度 完了:○ 一定の成果・継続:○ 進捗していない:△	
				R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度					
⑳-1	サイクリング客のアクセス、受け入れ環境確保の検討	和歌山市が中心となり、交通事業者等と連携しながら進める。	中期(5～10年) サイクリング促進策検討・調整 拠点等受入環境整備	→						・自転車活用推進計画を策定予定	計画に併せて実施		○
㉑-1	企業や大学と連携したタイムリーな情報提供や利用促進の実施	和歌山市の支援のもと交通事業者が中心となり、企業や大学等と連携して実施。	中期(5～10年) MM施策検討・実施		→					・高校、大学入学時のチラシの配布	高校、大学入学にあわせて公共交通利用促進チラシ配布		○
㉑-2	大学等と連携した公共交通による健康づくりプロモーションの実施	和歌山市と大学、医療機関、市民団体等が連携して実施。	中期(5～10年) 連携検討・調整・助成						→		事例研究、関係機関と協議		○
㉑-3	市民がまちと交通について考えて体験するイベントの実施	和歌山市と地域団体、交通事業者等が連携して実施。	中期(5～10年) イベント検討		→					【富山氏の講演会を実施】 ・貴志川線祭り ・アートトレイン ・加太さかな線プロジェクト ・経営共創基盤 富山氏を招いて、講演会を開催	・貴志川線祭り ・加太さかな線プロジェクト		○
㉑-4	交通を題材とした学校教育の深化や充実による交通まちづくりの基礎づくり(交通環境教育)	和歌山市、和歌山市教育委員会と交通事業者が連携して実施。	中期(5～10年) 取り組み検討・実施						→	・小学校に対する電車、バスの乗り方教室(貴志川線沿線の小学校、和歌山大学教育学部付属小学校) ・教育部門とも連携して、遠足や社会見学での公共交通機関の利用を促進	・小学校に対する電車、バスの乗り方教室 ・教育部門とも連携して、遠足や社会見学での公共交通機関の利用を促進		○
㉑-1	企業や商店等による路線育成組織(支援活動、イベント実施等)の設置検討	和歌山市が中心となり、企業や商店、交通事業者等と連携しながら進める。	中期(5～10年) あり方検討・調整						→	JR和歌山線と沿線地域の活性化をめざすため、沿線企業や学校、その他団体などとJR西日本和歌山支社が協力し、「ほくらの和歌山線活性化プロジェクト『ワカカツ』」を実施	JR和歌山線と沿線地域の活性化をめざすため、沿線企業や学校、その他団体などとJR西日本和歌山支社が協力し、「ほくらの和歌山線活性化プロジェクト『ワカカツ』」を実施	・和歌山線活性化検討委員会負担金200,000円	○
㉑-1	一日周遊切符等の販売	交通事業者が観光施設や店舗等と連携しながら進める。	中期(5～10年) 企画検討・実施	→					→	・バス旅、鉄旅乗り歩きっぷ ・わかやまいこらきっぷ、いこらきっぷプラス ・周遊クーポン券開発の支援【和歌山市観光協会】(11月から実施予定)	・わかやまいこらきっぷ、いこらきっぷプラス		○